

インコなどの鳥を飼っている人の多くが、毛引きなどの問題行動に悩んだことがあるのではないのでしょうか。毛引きとは、自分のくちばしで羽毛を抜いてしまうことです。今回は、こうした問題行動を防ぐため、食事環境の見直しを提案したいと思います。

みなさんは、「フォーシング（食物獲得）」という言葉をご存じでしょうか。「餌探し行動」を指す言葉です。野生の鳥の場合、餌を探す時間を含め、1日8時間以上を食事に費やすこともあります。一方、飼育されてる鳥は餌が用意されているため、食事にかかる時間は数十分です。問題行動は、この食事環境の違いが原因の一つと考えられて



野生の生活に近付けて

います。いつでも餌を食べることができる鳥は、1日の時間を持て余して問題行動に走る可能性が指摘されているのです。実際、野生の鳥には毛引きはほとんど見られません。

そこで最近、飼育されている鳥にも「フォーシング」をさせようとする考えが広まっています。飼育されている鳥に長距離を移動して餌を探す環境を作ることは難しいため、餌の容器などに工夫する方法が考えられています。例えば、ボールの中に餌を入れ、転がすと餌が出てくるような仕掛けを作ったり、すぐ

に食べられないように餌を葉などで隠したりするのです。

フォーシングを行うと、問題行動が減るだけでなく、餌を手に入れる楽しみや好奇心が満たされるなどの効果が期待できます。ただ、導入には注意が必要です。フォーシングに全く興味を示さない鳥もいますし、食事量が足りなくなって具合が悪くなることもあります。食事量をきちんと観察し、定期的に動物病院に相談することも大切です。

(アニコム損保

獣医師 渡邊賢介)